

8803 自宅から電車を使って三十分ほどの所へ・・・

自宅から電車を使って三十分ほどの所へ部屋を借りている。原稿を書くために借りた部屋だから、一応仕事場なのだろうけれども、仕事場というよりは少しばかり遠い離れ (an extension (of my home)) みたいなものだ。で、その離れに出かける前に、母と紅茶を一杯飲む。離れについて、まず、お湯を沸かし、コーヒーを一杯。

お茶好きは子供の頃からで、せんべい(a rice cracker)をかじりながら、お茶を飲み、縁側に寝そべってばかりいたので、ばあさんと仇名された。

中沢 けい：風のことば 海の記憶

[許容訳例]

I rent a room about 30 minutes by train from my house. Since I rented the room for writing in, it is, in theory, my place of work. Actually, though, I feel it is, rather, an extension though rather far removed of my home. Before going to the "extension", I have a cup of tea with my mother. After arriving there, I immediately boil some water and have a cup of coffee.

I have liked tea ever since my childhood. I used so often to sprawl on the verandah, drinking tea and munching a rice cracker, that I was nicknamed "Granny."

[翻訳例]

I rent a room 30 minutes or so on the train from my home. I first rented it to do my writing in, so I suppose you might call it my place of work, but in fact it's not so much a place of work as a somewhat distant extension of my home. Thus before leaving for the "extension," I have a cup of tea with my mother. When I get there, the first thing I do is to boil the kettle and have a cup of coffee. My fondness for such refreshments dates from my childhood, when I'd spend so much time lying around on the verandah drinking tea and munching rice crackers that I was nicknamed "Granny."

■自宅から電車を使って三十分ほどの所へ部屋を借りている。(8803)

★「自宅から」は from my house [home]です。なお、away from my house [home]でも間違いではありませんが、awayを入れると、たとえば、I stood two meters away from him.と言うと、ただ距離のことを言っているのではなく「離れて・間を置いて」という違ったユアンスが含ませてしまうことになります。

★「電車を使って」は「電車で」と考えて by train (電車という手段で)とか、on the train (電車に乗って)など。なお、using the trainとは言えませんし、taking the train もここでは使えません。「電車で [に乗って] ~へ行った」ではないからです。

★「三十分ほどの所」は about 30 minutes とか some [around] 30 minutes; 30 minutes or so など。

★「私は部屋を借りている」は I rent a room です。

■原稿を書くために借りた部屋だから、一応仕事場なのだろうけれども、仕事場というよりは少しばかり遠い離れ (an extension (of my home)) みたいなものだ。(8803)

★「原稿を書く」は、ここでは具体的な動作を述べているというより「原稿を書くことを仕事にしている；原稿を書いて生活している」ということを伝えようとしているのですから、それを前提にこの個所を考えると「(そこで) 書き物をする」ということで、do my writing (in), アメリカ英語なら work on my writing (in)でしょう。したがって、「(そこで) 書き物をするために」は to do my writing in です。また、「書き物をする部屋」と纏めれば the room for writing in と言うことも出来ます。なお、「原稿」は a manuscript で、『新編英和活用大辞典』には write one's manuscript oneself [in one's hand]が記載されちますが、write a manuscript は dig a hole ほど自然ではありません。

★「私はその部屋を借りた」は I rented it (=the room).ですが、そもそもの目的はお茶を飲むためではなく初期の目的は書き物をするためであったという意味を出すために first を加えた方がいいです。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(原稿を書くために借りた部屋)

「原稿を書くために借りた部屋」は「連体修飾節 ((私が) 原稿を書くために借りた) ＋不定代名詞的体言 (部屋)」ですから、英語では「名詞(the room)＋関係詞節(which I rented for writing in/ rented to do my writing in)ですが、すぐ前に「部屋を借りた」とあり、「・・・部屋だから」と続くので「私はその部屋を書き物をするために借りたので・・・」として、I rented it to do [work on] my writing と続けた方がいいです。

● [だから] (因果)

「だから」は so でもいいし、どういう部屋か了解済みなので、文頭に since をつけて理由にしてもいいです。

★「一応」は、「ある意味では」(in a sense)とか、あるいは「理屈から言えば」(in theory)でしょう。

★「それは仕事場であろう」は I suppose it is my place of work.とか I suppose you might call it my place of work.など。単なる個人の意見としての「・・・だろう」には I suppose がよく使われます。たとえば、When I owe people money, I can't sleep at night. I suppose I'm just made that way. (借金があると夜眠れない。そういう性分に出来ているんだろう) のように。なお、It should be my place of work. (本来なら仕事場のはずなんだが (そうではない) は駄目です。

● [けれども]

「仕事場なのだろう [けれども]」は、「けれども」は but とか though ですが、ここは「あなたなら、仕事場と言うであろうと私は思うのだが」と仮定法を使って書くこともできます。解釈によって様々の書き方が可能です。

★「仕事場というよりは少しばかり遠い離れみたいなものだ」には「実際は」が言い回しの中に隠れているように感じられます。入れるなら actually とか in fact です。

★「～というよりは・・・みたいなもの」は not so much ~ as...か、あるいは less ~ than...であらわすのが普通ですが、I feel it is, rather, ...という書き方も可能です。

★「少しばかり遠い」は a bit far from ~; rather far removed; a somewhat distant (extension) ... などです。

★「離れみたいなもの」は「離れ」という習慣のない欧米人には I feel it is, rather, an annex which is a bit far from my house と言われてもわからないと思います。日本語の「離れ」とは違いますが「家の（延長の）ようなもの」という意味で extension of my house とするしかないでしょう。annex は普通「別館」という意味で、同じ敷地内にある「離れ」というイメージは浮かばないと思います。

■で、その離れに出かける前に、母と紅茶を一杯飲む。(8803)

● [で] (前置きの終了を表す)

「[で], その離れに・・・」の [で] は、特に訳さなくてもいいですが、一応これで前置きは終わったという感じなので、so ではなく、Now とか Thus を使ってもいいと思います。特に thus は前の「離れみたいなものだ」を少し具体的に説明しようとする感じになっていいかも知れません。

★「その離れに出かける前に」は before going to the "extension" とか before leaving for the "extension" とかでしよう。

★「母と」は with my mother です。

★「紅茶を一杯飲む」は have a tea も間違いではありませんが have a cup of tea の方が何となく自然な感じです。ここも「いつものこと」を述べているのですから現在時制です。なお、習慣となると have tea も可能です。これは、たとえば、I have tea with her once a week. のように、一つの習慣を述べる感じになります。

■離れについて、まず、お湯を沸かし、コーヒーを一杯。(8803)

★「離れについて」は、いろいろな書き方が可能です。When I arrive [get] there とか After arriving there とか On arriving [getting] there とか On arrival などです。

★「まず、・・・」は 副詞で first とか immediately などでも可能ですが、「まず」の後にコンマがあるので、ちょっとウエイトを加えているようです。英語では、こういう場合、the first thing I do is... という表現をよく使います。

★「お湯を沸かす」は boil some water が普通でしょう。他には boil the kettle とも言います。

★「コーヒーを一杯」は「一杯入れる」という意味にも「一杯飲む」という意味にもとれます。前者なら make a cup of coffee とか make [get] myself a cup of coffee です。

■お茶好きは子供の頃からで、せんべい(a rice cracker)をかじりながら、お茶を飲み、縁側に寝そべってばかりいたので、ばあさんと仇名された。(8803)

★「お茶好きは子供の頃から」は難しい。というのは、「お茶好き」の「お茶」の中に「コーヒー」も入るのかという問題があります。著者の書きぶりではどうもコーヒーもお茶の一

つに入れているようです。その場合は英語では「お茶やコーヒーなどの飲み物を飲むこと」と考えなければなりません。それから、もう一つの考え方は、ここで行が改められていることから判断して、「紅茶」のことも言った、「コーヒー」のことも言った。今度は「日本茶」のこと、というふうに解すことが出来ます。この解釈は著者の意図から離れるように感じられますが、「飲み物好き」の一例と考えてもよいとも思われます。このように、内容的にはいろいろ問題を含んでいますが、構造的には「[お茶好きは子供の頃から始まった][そして]」と考えることができるし、「[私は子供の頃からお茶が好きだった][そして]」と考えることもできるので I have liked [have been fond of] tea (ever) since my childhood のように書くことも出来るし、My fondness for tea dates from (my) childhood と書くことも出来ます。なお、コーヒーはお茶の中に入らないと考えるなら tea の代わりに such refreshments とすればいいでしょう。

★「せんべいをかじる」は munch a rice cracker [rice crackers] です。nibble at は「少しずつかじる」でネズミなどがかじっているイメージになってしまいます。

★「お茶を飲む」は drink [have] tea です。

● [ながら] (暫時同時)・[連用形] (～を飲み) (動作順次)

「せんべいをかじり [ながら], お茶を飲み、・・・」の [ながら] は and や while で繋いでいいし, as を使ってもいいです。つまり, drinking tea and [while] munching ~とか drinking tea as I munched ~とか, あるいは動詞を入れ替えてもいいと思います。

★「縁側で」は on the verandah がいいです。アメリカでは verandah の意味で porch も使います。

★「寝そべってばかりいた」は「ばかりいた」は「過去の反復動作」を表しているのですから「よく縁側に寝そべっていた」とか「よく縁側で寝そべって時間を過ごしていた」と考えると I used to sprawl [stretch myself out] とか I used to lie around などです。なお, used to の代わりに回想的に would を使うことも出来ます。

● [ので] (因果)

「よく縁側で寝そべって (時間をすごして) いたので」は「{よく縁側で寝そべって (時間をすごして) いた} + [ので]」という組み合わせで、この [ので] は、and でも so でもいいのですが、直前で and を使うので、次の「ばあさんと仇名された」と睨みあわせると「あまりにも・・・ばかりしていた「なので、それで (・・・と言われる程だった)」という感じです。したがって、so often ... that ...の型と組み合わせることが出来ます。また、spend so much time (in) lying... that...とすることも出来ます。なお、「ので」ですが、ここでは始めて出てくることが述べられるので Since...とか As...とか、先頭に置くことは出来ません。また、As...はいろいろな意味があるので、後の方まで読まないという意味で使ったのかわからないから避けるべきです。

★「ばあさん」は Granny くらいでいいでしょう。アメリカでは Grandame; Grandam などとも言います。

★「～と仇名された」は I was nicknamed ~ です.